

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500274		
法人名	社会福祉法人コスモス会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	宮崎県小林市真方5038-1		
自己評価作成日	令和4年11月5日	評価結果市町村受理日	令和5年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・その人らしく生活ができる事を目指し支援しています。
- ・毎朝廊下の歩行訓練を行い、テレビを見ながら体操している事を日課としています。
- ・水分摂取、排便コントロールをおこない体調管理を行っています。
- ・レクレーションや、手作業など毎日楽しく過ごす事ができるよう支援しています。
- ・清潔に気を配り暮らしやすい生活ができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・管理者は、利用者に寄り添い、穏やかに笑顔で過ごせる支援ができる職員体制に努めている。
- ・災害対策の一環として、火災や地震を想定した避難訓練を、毎月繰り返し行っている。
- ・利用者と共にホットケーキや団子などのおやつづくり、ホームにある梅を収穫して梅干し漬を生活の一環として取り入れている。
- ・新型コロナウイルス感染症感染防止対策により、外出の機会が少なくなったが、毎日廊下での歩行訓練の実施、降車を減らしてのドライブや、園庭でのお茶会、趣向に富んだ室内レクレーションを増やす対応を取っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設で新しい理念を立ち上げており、毎朝とひだまり会にて唱和している。	法人全体として、地域への介護を通じた地域貢献と職員の意欲とスキルアップを目標に、今年度、職員全員で作り上げた法人理念があり、ホームも毎朝唱和している。ホーム独自の理念は具体的な行動指針として捉えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流をしたいと考えていたが、思うようには出来なかった。	法人全体の地域活動委員会に参加して、地域との交流を検討している。コロナ禍で交流の機会は激減したが、ホームでは中、高校生の実習受け入れや、地域のお宅の花見に誘われる等の交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習生を受け入れなどして、認知症の人と交流をして理解していただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や、地域、家族代表の方に参加して頂き、取り組み支援にいかしている。	コロナ感染症対策のために、事前に会議資料を配布してWebによるリモート会議で、リモート操作が出来ない推進員は参加できないままである。 ヒアリングと事故報告の判断基準の質問を受けて資料収集を行った。	会議時間が限られており、効率的に会議を行うために、事前に質問や意見を把握しておくことや、多くの委員が参加できるようにスマートフォンを利用するなどの取組を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や質問など、行政に連絡し協力をもらっている。	ケアマネジャーやコロナ感染症対策の研修会があり、支援の方法や、感染予防や対応についての助言を貰う他、情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会や研修会を行っている。 またひだまり会などで、確認を行いながら、取り組んでいる。	職員は身体拘束となる具体的な行為について、定期的な勉強会を行なっている。スピーチロックにならない言葉かけを含め、身体拘束のない介護に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束も含めて、虐待を見過ごす事がないように勉強会や研修会を行い職員の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の必要性が考えられる利用者が活用できるように学ぶ機会を持ち、理解していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族に説明し、少しでも不安のないように説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろより、家族の意見を聴いたりする場面をつくっている。	家族の窓越しの面会時や、ホームだより「ひだまり」、SNSによる発信、電話等の手段を通して、利用者の情報を家族に発信して意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひだまり会に代表者も参加しており、職員の意見など直接聞いて頂くなどの機会をつくっている。	毎月の職員会議には代表者も参加し、職員の出す意見や要望も積極的に取りあげられている。感染対策をとり、降車しないドライブや園庭でのお茶会、リクレーション等職員の意見や提案を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望など可能な限り要望に応え、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や、ネットによる勉強会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在交流する機会がないため、連携がとれていない状況である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な状況を少しでも取り除く事ができるように寄り添いながら安心していただける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を案内したりパンフレットを使い、家族の声を聴き、安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人が安心して利用できるように、また要望など聞きながら、他のサービスとの連携もとりながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には励ましてもらったり、いろんな知恵をいただく事も多々ある。共に支えあう環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に日常の様子や、喜びや悩みを報告して、一緒に共有しながら支えていく関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会が無くなり、関係性が薄れてきている。馴染みの人におたよりを出すなどして、関係が途切れないよう支援している。	外出や人と接する機会が少なくなるため、ホームだよりや、電話で家族等へ連絡をしたり、親しい人へ写真付きのハガキを出すなど、関係が継続するよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように、ソファに自由に座り会話が出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した後も、関係性が途絶えない様に、気軽に声掛けできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに思いや希望を聞く機会をつくり、また家族に話を聞き、支援に繋げている。	利用者と趣味や生活歴を会話に取り入れたり、言葉や表情及び動作等から、希望や思いの把握に努め、実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーション時や、昔の生活の話を利用者同士で話しているのを聞いたり、また会話に参加する事で、支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人の利用者に向き合い、状況、状態に応じて出来る事をやって頂き一日を有意義に過ごしていただくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の経過記録を評価したり、ひだまり会で共有し、時には受診、PTなどの助言をいただきながら支援している。家族の思いも聞きながら介護計画を作成している。	一人ひとりの利用者及び家族の希望や意見を取り入れ、全職員が参加する「ひだまり会」にて検討し、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いた事や、ケアの内容の確認などについては、記録に残し、早めの対応ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診などは基本家族にお願いしている。併設の特養の看護職の助言など貰っている。医療機関とも連携している。有償ヘルパーの利用も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動福祉理容や郵便局や病院など関わりを持ちながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望するかかりつけ医を受診している。予防接種などは家族の同意をもらい、協力医療機関で行っている。	本人や家族の希望で入居前のかかりつけ医の受診を続けている。受診時付き添いは、家族にお願いし、健康状態等の記録を用意し、情報提供ができるよう支援している。特に変化があるときは、職員が同行し、直接説明するよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化に早めに気が付けるようにしている。早めの病院受診や、特養の看護職と連携を取りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医療連携室や家族に連絡取りながら情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の事業所の状況も説明しており、重度化した場合、家族や医療関係、併設の特養など連携を図りながら支援している。	看取りは行っていないことを、入居時に説明し、同意を得ている。重度化し医療的処置が必要となる場合には、早めに、家族等関係者と話し合い方針を決め、併設の特別養護老人ホームや入院対応の病院等と連携して対応するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを備え、AEDの使い方の勉強会など行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。 また、併設施設との、合同の防災訓練に参加する事で、協力体制を築いている。	毎月、地震・火災・噴火等いずれかの災害を想定した避難訓練を行っている。頭巾をかぶる、タオルで口を覆いながら避難するなど、繰り返し体験できるよう取り組んでいる。併設施設との合同の防災訓練では、地域との協力体制も確認している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束の勉強会時にも、言葉かけは大事である事を繰り返し指導している。特に排泄時の対応などは気を付けている。	性格や好み等が違うことを考慮し、言葉かけや活動への参加等に配慮している。みんなで一緒に童謡を歌うことを嫌がる利用者には、無理に勧めることはせず、好きな話をするなどの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分で決定できるような言葉かけを行い、本人の意に沿う支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて声掛けするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に洋服の希望を聞いたりしながら、本人の望むおしゃれもしていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の苦手な食材の時は変更しながら、楽しんで食事ができるよう支援している。おやつ作りなど定期的に行っている。	月に1回程度、利用者が一緒に季節感のあるおやつ作りをして、自分たちで作ったものが食べられ、喜ばれるよう支援している。行事食や園庭で昼食をとる時の特別メニュー等食事が楽しみとなるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の助言をもらいながら、栄養管理、水分摂取など管理し行っている。咀嚼に関しては、食形を変え、また歯科医師に相談しながら支援している。入浴後は水分補給など行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声掛けし口腔ケア実施している。 介助が必要な方は付き添い支援している。 夜間は義歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しながら、トイレに誘導し自立にむけた支援をしている。 夜間帯も声かけしトイレ誘導を行っている。	布パンツを使用し自立に近い利用者が多いが、排泄時は必ず職員が付き添い、排泄行為の確認や必要な介助を行っている。排泄の意思表示がない利用者には、排泄パターンに応じてトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとり一人の排泄状況のチェックを行っている。 水分量の確認や運動を行い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調など確認しながら、個別で入浴支援を行っている。 柚子風呂など季節を楽しめるように支援している。	入浴を拒否する利用者はなく、週2回の入浴を楽しみにしている。湯に浸かっている時間や湯温は一人ひとりの好みに合わせながら、健康に配慮して、声掛けをしている。ゆず湯やたまには入浴剤を使って入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ホールにて過ごしていただき、体操や歌など歌いリズムのある生活を行い、夜間ゆっくり休んでいただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時に処方箋と確認し、個別に薬袋を使用し、誤薬の無いうに支援している。薬の変更時は連絡ノートを使用して確認している。医療関係者と連携を取りながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった出来る事を探しながら、楽しめる様に工夫しながら行っている。外出時にお菓子や飲み物を買われたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて、外の散歩をしたり、お茶を飲んだりしている。	桜の花の下で昼食を食べたり、庭でお茶を飲んで、その後敷地内の散歩をしたり、日常的に戸外に出られるよう支援している。病院や郵便局に出かけた時、欲しい物が買えるよう支援している。車の中から、花見ができる場所へのドライブも行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の為に必要な物品の購入のため、小口現金を預かり、金銭管理している。定期的にご家族に出納帳や金額の確認している。外出時に好きな物を買われたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人持ちの携帯電話を持たれている利用者は、自ら家族に連絡されたりしている。また家族と話がしたいと言われる時は、家族に電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに飾るカレンダーを作り、季節を感じるような飾りつけをしている。居室には利用者が作ったカレンダーを飾っている。	ホールは家具の配置の間隔が広く、4台のソファを置いてもゆっくり過ごせる空間となっている。ホール内には、季節感のある飾りつけをして、職員手作りのカレンダーには、当日の印や利用者の誕生日を記入するなど分かりやすいように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファに自由に座れるように置いてある。気の合った利用者同士で話をされたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族が希望されれば、安全面を考えながら落ち着かれる居室を作っている。使い慣れた寝具など持ち込まれている。	入居時、本人や家族の希望を聞いて、馴染みの物を持ち込み居心地のいい居室となるよう取り組んでいる。家族からの贈り物、職員手作りの誕生日の色紙などは、すべて居室内に飾り、温かみのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口の郵便受けに名前を書き、自分の居室である事を理解するように工夫している。		